

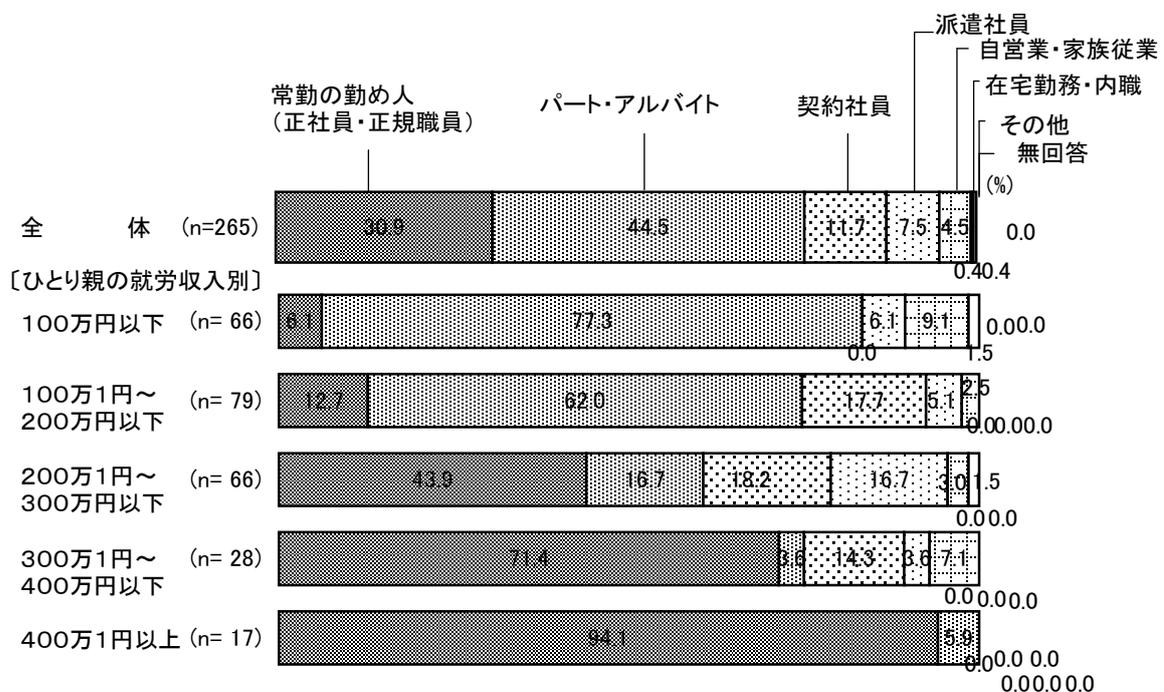
府中市次世代育成支援に関する市民意向調査〈ひとり親世帯調査〉

検討しているクロス集計の集計軸

- ・ 同居家族の有無
- ・ 就労の有無
- ・ 世帯収入
- ・ ひとり親の就労収入

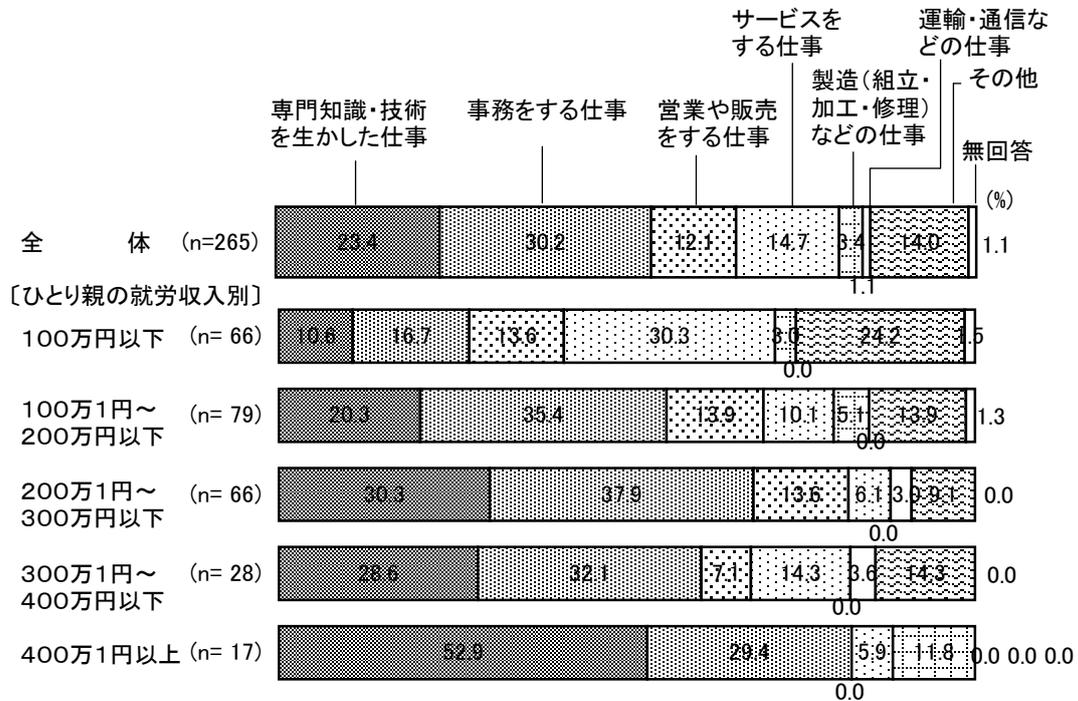
1. 就労形態（問1-1）

就労形態について、ひとり親本人の就労収入別にみたところ、収入が高いほど「常勤の勤め人」の割合が高く、逆に「パート・アルバイト」の割合が低くなる傾向が見られる。また、就労収入が「200万円1円～300万円以下」の人は「契約社員」や「派遣社員」の占める割合が高い。



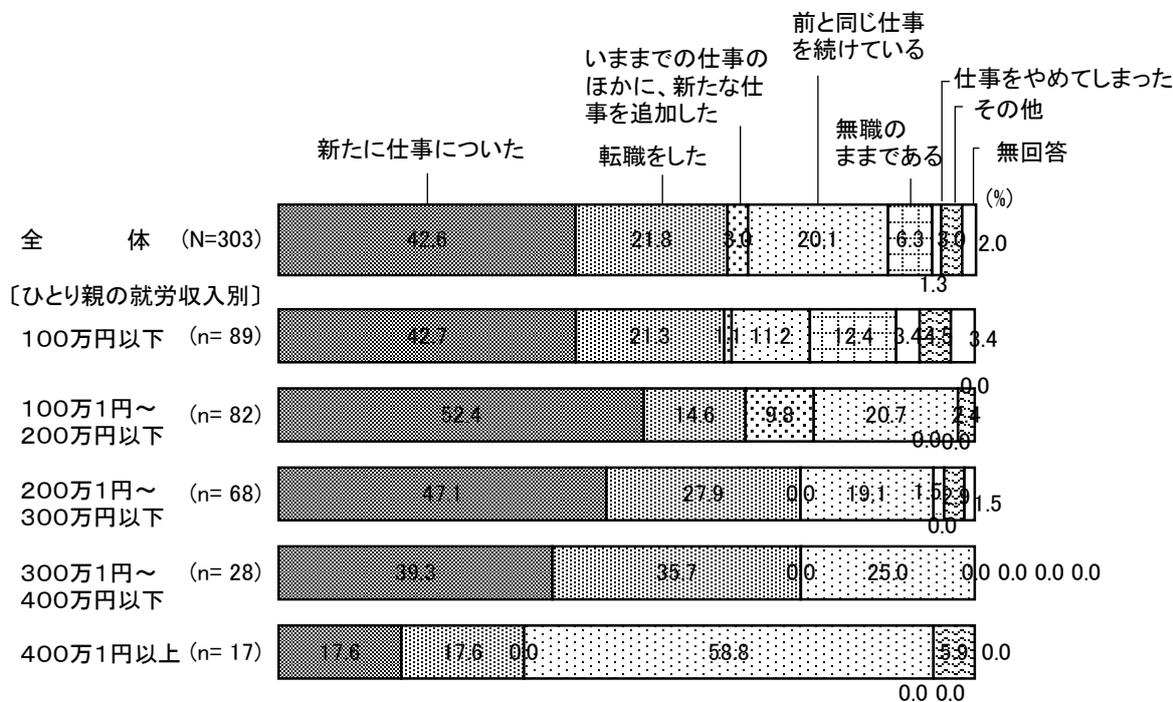
2. 就労形態（問1-2）

職種についてひとり親本人の就労収入別に見ると、収入が高いほど「専門知識・技術を生かした仕事」の割合が高くなる傾向が見られる。一方、「事務」は収入が100万円～400万円以下の中間層に多く、「営業や販売をする仕事」に関しては、300万円以下の収入の人に多くなっている。また、「サービスをする仕事」に就いている人の割合は、100万円以下で多くなっている。



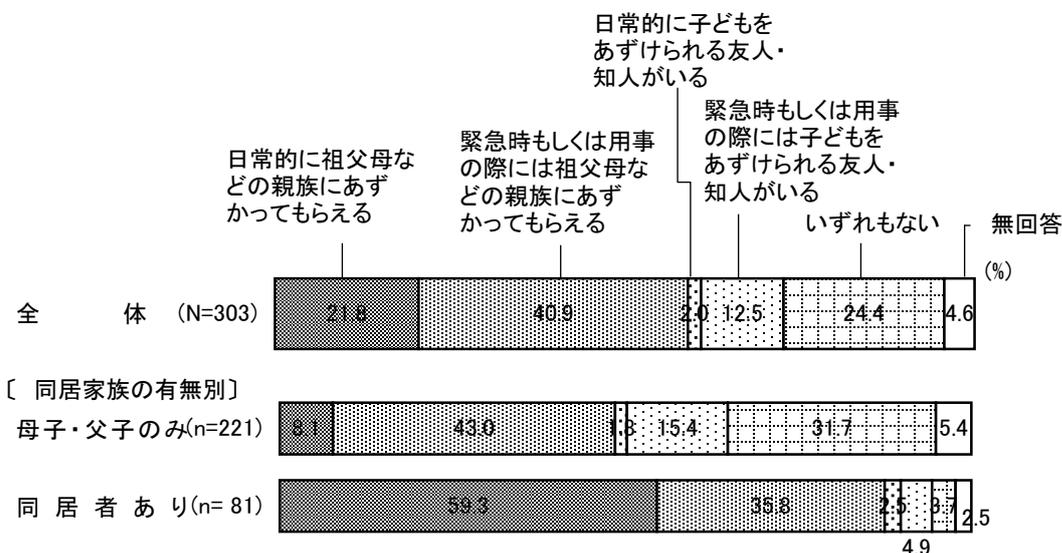
3. 仕事上の変化（問2）

ひとり親になる前となった後での仕事上の変化について、ひとり親本人の就労収入別に見ると、収入300万円以下の方は「新たに仕事についた」人の割合が高くなっている。また、収入が高くなるほど、「前と同じ仕事を続けている」人の割合が高くなる傾向が見られる。



4. 子どもをあずかってもらえる人について（問10）

子どもをあずかってもらえるかどうかに関する状況についてたずねたところ、「日常的に祖父母などの親族にあずかってもらえる」と答えた人は、同居家族のある家庭が6割弱であり、母子・父子のみの家庭は1割未満である。逆に「緊急時などの際には子どもをあずけられる友人・知人がいる」、「いずれもない」と答えた人は、母子・父子のみの家庭が同居家族のある家庭を上回っている。



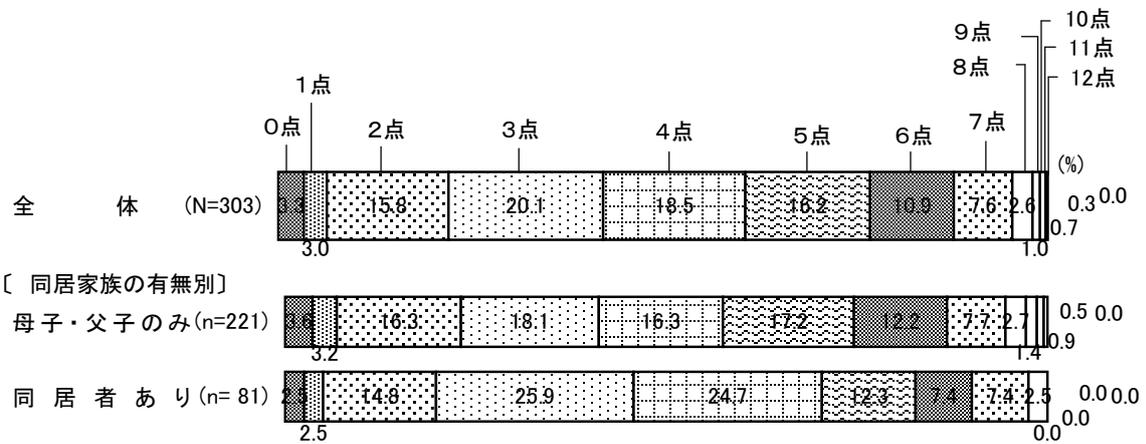
5. 虐待の傾向について（問 12 集計）

虐待の傾向について点数化したところ、母子・父子家庭は同居家族のある家庭に比べて、虐待の傾向が強いことがわかる。

※問 12 の③、⑤、⑥、⑦を点数化し、合計している。

よくある:3点、ときどきある:2点、あまりない:1点、ない・無回答:0点

- ③ 子育てが嫌になることがありますか。
- ⑤ イライラして子どもをたたいてしまうことがありますか。
- ⑥ しつけのために子どもを厳しくしかることがありますか。
- ⑦ 子どもに食事を与えない、風呂に入れないなど、子どもの面倒をみないことがありますか。



6. 生活していくにあたって心配していること（問 21）

心配していることについて、同居家族の有無別で見ると、母子・父子のみの家庭は同居家族のある家庭に比べて、「自分の健康のこと」を心配する人の割合が多い。また、就労の有無別で見ると、働いていない人は働いている人に比べて「生活費のこと」、「自分の健康のこと」、「子どもの健康のこと」などを心配する人の割合が多い。

		生活費のこと	仕事のこと	住居のこと	自分の健康のこと	子育てのこと	子どもの健康のこと	家事のこと	結婚のこと	元夫または元妻のこと	借金の返済のこと	その他	特にない	無回答
全 体 (N=303)		84.2	61.1	39.6	55.1	42.2	44.2	15.5	6.3	5.6	11.9	7.6	2.3	1.7
の同居 無別 家族	母子・父子のみ (n=221)	83.3	61.1	38.0	58.8	40.3	44.3	14.9	4.5	4.5	11.3	7.7	2.3	2.3
	同居者あり (n= 81)	86.4	61.7	44.4	44.4	48.1	43.2	17.3	11.1	8.6	13.6	7.4	2.5	0.0
無就 別労 の有	働いている (n=265)	83.4	60.8	39.6	53.6	42.6	43.8	15.8	6.0	6.0	12.1	7.5	2.6	1.9
	働いていない (n= 37)	89.2	62.2	37.8	67.6	40.5	48.6	13.5	8.1	2.7	10.8	8.1	0.0	0.0

7. 日ごろ悩んでいること、気になること（問 22）

日ごろ悩んでいること等について同居家族の有無別で見ると、母子・父子のみの家庭は同居家族のある家庭に比べて、「友だちづきあいなど対人関係に関すること」、「子どもとの接し方に自信が持たないこと」、「子どものことに関する話し相手や相談相手がいないこと」などが多くなっている。

就労の有無別で見ると、働いていない人は働いている人に比べ、「病気に関すること」や「発育・発達に関すること」、「子育ての方法がよくわからないこと」などが特に多く、反対に働いている人は働いていない人に比べ、「子どもとの時間を十分にとれないこと」が多い。

		病気に関すること	発育・発達に関すること	食事や栄養に関すること	子育ての方法がよくわからないこと	子どもとの接し方に自信が持たないこと	子どもとの時間を十分にとれないこと	子どもとのほめ方／しかり方がよくわからないこと	いじめに関すること	友だちづきあいなど対人関係に関すること	子どもの教育・塾、進路に関すること	子どもに落ち着きがないこと	仕事や自分のやりたいことが十分にできないこと	や相談相手がいないこと	学費など、子どもにかかるお金	その他	特にない	無回答
全 体 (N=303)		26.4	13.5	13.2	5.0	12.5	30.7	13.9	11.6	24.1	50.8	10.6	23.4	8.3	73.9	2.6	2.6	2.6
の同居 無別 家族	母子・父子のみ (n=221)	24.9	10.9	10.0	5.4	13.6	30.3	14.9	10.4	25.3	51.6	9.0	23.1	9.0	74.7	3.2	3.2	2.3
	同居者あり (n= 81)	29.6	21.0	21.0	3.7	9.9	32.1	11.1	14.8	21.0	49.4	14.8	24.7	6.2	71.6	1.2	1.2	3.7
無就 別労 の有	働いている (n=265)	24.2	12.1	12.5	3.8	11.7	34.7	12.8	10.6	23.4	51.3	10.2	23.8	7.9	74.3	2.6	3.0	2.3
	働いていない (n= 37)	43.2	24.3	18.9	13.5	18.9	2.7	21.6	18.9	29.7	48.6	13.5	21.6	10.8	70.3	2.7	0.0	5.4